

# 森林でつながる ローカルSDGs

名古屋市は、水源地の一つである長野県木祖村と、ローカルSDGsの形成をめざし、木曽川源流の里「名古屋市・木祖村交流の森」整備協定を結び、木材の利用や森づくり、木曽川上下流交流活動をすすめています。



## 木材を利用して森林を守る

木材の利用は、適切な森林整備につながります。

日本の国土の約3分の2は森林で、そのうち4割は人工林です。人工林は間伐などの適切な整備が行われることで、成長が促進され、CO<sub>2</sub>の吸収や土砂災害の防止、生物多様性の保全といった多くの機能が十分に発揮されます。そのため、間伐、木材利用、植樹、育樹の一連のサイクルを保つことが必要です。



## 地域をつなげる森づくり

木祖村内の森の一部を「名古屋市・木祖村交流の森」として整備し、環境学習の場として活用しています。

水源地の森を整備することは、名古屋市の水や自然環境を守ることにもつながります。

### 地域循環共生圏(ローカルSDGs)とは

地域循環共生圏は、地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカルSDGs事業）を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくるとともに、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考え方です。

出典：環境省ホームページ (<https://chiikijunkan.env.go.jp/shiru/>)

## 名古屋市の取り組み

事業者等と連携し、  
木曽地域の間伐材を活用した  
モデル製品の開発を行いました！



### プランター・カバーベンチ

組立式でオフィスや公共空間等の  
屋内の木質化に寄与します



交流の森での植樹などの活動で  
環境学習・地域間交流を実施

お問合せ先

名古屋市環境局環境企画課  
TEL: 052-972-2293  
E-Mail: a2669@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT GOALS